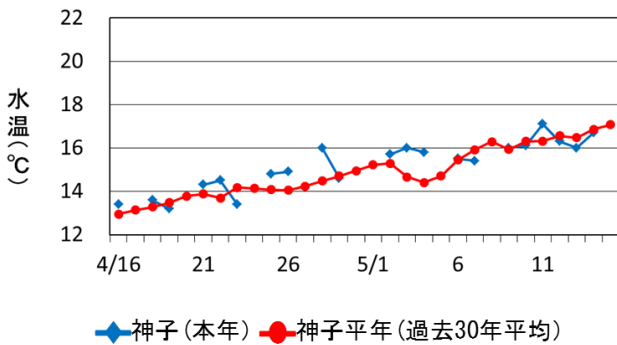




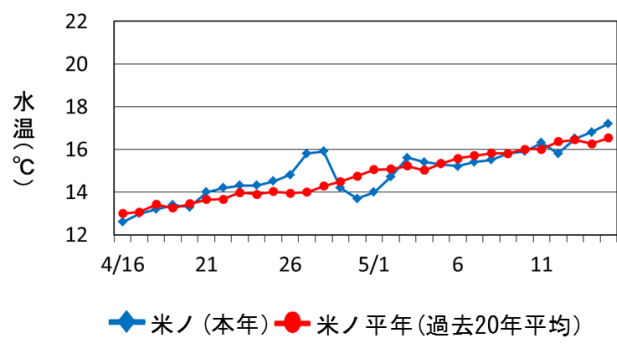
海の状況 (4/16~5/15)

- ・ 神子地先の表面水温…13.2℃~17.1℃ (平年差-0.6℃~1.5℃) の範囲で概ね平年より高めに推移していた。(図1)
- ・ 米ノ地先の表面水温…4月下旬 (平年差1.8℃) から5月上旬 (平年差-1.0℃) にかけて急激に変化したが、それ以降は 14.7℃~17.2℃ (平年差-0.6℃~0.7℃) の範囲で概ね平年どおり推移していた。(図2)



◆ 神子(本年) ● 神子平年(過去30年平均)

図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(本年) ● 米ノ平年(過去20年平均)

図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

- ・ 若狭湾および周辺海域の表面 (0m)、深度 50m、深度 100m では沿岸域の一部で水温が前年より高い海域 (14~16℃) がみられた。深度 200m でも前年より水温が高い海域 (6~10℃) がみられた。

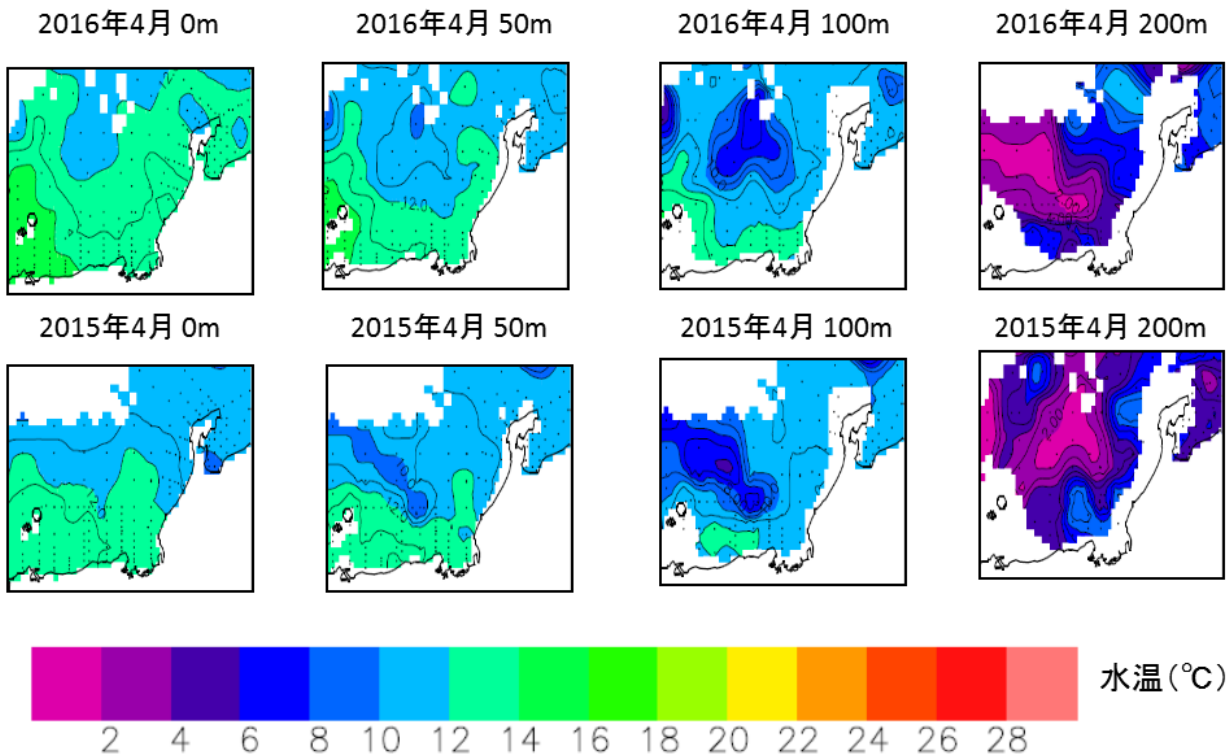


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

「浜へのたより」名称変更のお知らせ

今回より「浜へのたより」から「水試だより」へと名称が変更となります。これまでの海況や漁獲量情報をはじめとして、海・河・湖に関する様々な情報も発信していく予定です。なお、今後、水産試験場HPに掲載したものをご覧いただくこととなりますが、より良い情報提供方法も考えていきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いたします。

問い合わせ：水産試験場 海洋研究部 担当：漁場環境グループ 山下

(TEL 0776-26-1331 FAX 0770-26-1379)

〔県内の漁模様：4月〕

2016年4月の県内の総漁獲量は1148tで、昨年同月を124t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は563tで、昨年同月を225t上回った。ブリ類、サワラ、マダイ等は昨年同月を上回り、マイワシ、アジ類、サバ類は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は345tで、昨年同月を151t下回った。キダイ、ヒラメ、スルメイカは昨年同月を上回ったが、それら以外の魚種は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は240tで、昨年同月を51t上回った。アナゴ、サヨリ、タコ類等は昨年同月を上回り、ブリ、キダイ、スルメイカ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(4月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
マイワシ	28,728	57,712	7,671	-28,984	21,057	メバル類	1,450	1,606	1,319	-156	131
カタクチイワシ	3,090	275	4,491	2,816	-1,401	スルメイカ	924	560	697	364	227
アジ類	65,702	118,147	79,795	-52,445	-14,093	ホタルイカ	146,427	236,541	269,009	-90,115	-122,583
サバ類	2,446	4,038	3,421	-1,592	-975	アカエビ	31,234	41,709	38,835	-10,475	-7,601
マグロ類	637	33	1,973	604	-1,336	その他エビ	2,718	4,086	5,403	-1,368	-2,685
ブリ類	236,226	81,048	93,709	155,178	142,517	その他	50,577	30,479	35,026	20,098	15,551
(ブリ)	20,131	3,615	3,378	16,516	16,753	合 計	345,450	496,601	539,780	-151,151	-194,330
(ワラサ)	79,160	32,888	10,301	46,272	68,859	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(ハマチ)	29,528	3,545	11,243	25,983	18,284	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
(ツバス)	107,408	40,999	68,787	66,408	38,621	ブリ	3,597	3,710	1,198	-112	2,400
サワラ	88,500	7,323	74,137	81,177	14,364	マダイ	8,777	8,567	6,130	210	2,647
マダイ	21,054	11,304	20,232	9,749	822	キダイ	9,949	12,083	3,616	-2,134	6,332
スズキ	17,589	9,259	16,312	8,329	1,276	アマダイ	4,390	3,784	4,179	606	211
ヒラメ	1,255	479	1,407	777	-152	スズキ	1,124	1,609	2,632	-485	-1,508
フグ類	63,120	17,319	17,552	45,802	45,569	ヒラメ	5,219	3,607	6,699	1,612	-1,480
スルメイカ	5,252	2,307	15,380	2,945	-10,128	その他カレイ	12,108	18,663	15,560	-6,554	-3,451
ヤリイカ	3,365	1,003	3,255	2,361	109	アナゴ	2,153	524	1,982	1,630	172
コウイカ	1,456	669	2,070	787	-615	サヨリ	7,975	6,955	7,262	1,020	713
その他	24,689	27,525	28,197	-2,836	-3,507	メバル類	5,266	8,945	12,286	-3,680	-7,020
合 計	563,109	338,442	369,602	224,667	193,507	スルメイカ	15,376	21,082	43,048	-5,707	-27,673
底びき網 (kg)						ヤリイカ	2,824	2,111	3,438	713	-614
魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差	コウイカ	3,236	1,780	2,868	1,457	368
マダイ	2,339	3,748	2,435	-1,409	-96	タコ類	12,393	8,654	11,621	3,739	771
キダイ	1,955	1,898	2,610	57	-655	その他	145,146	86,612	77,853	58,533	4,765
スズキ	3,579	4,959	2,106	-1,380	1,473	合 計	239,533	188,685	200,373	50,848	39,160
ヒラメ	6,299	2,922	2,871	3,376	3,428	全漁法 (kg)					
アカガレイ	61,405	99,361	100,972	-37,956	-39,567	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
その他カレイ	30,817	46,100	38,782	-15,283	-7,966	合 計	1,148,092	1,023,727	1,109,756	124,364	38,336
アナゴ	1,876	3,150	2,578	-1,274	-702						
ハタハタ	3,850	19,480	37,136	-15,630	-33,286						

※1 平年の値は2006-2015年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：4月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：4月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：4/2-4/29の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：4月中旬～5月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ138.6t、マアジ6.1t、サワラ類4.0t、サバ2.7t、スルメイカ2.2t、ブリ1.7t

京都府…定置網…サワラ類3.4t、ブリ(ハマチ・ツバス)2.7t、マアジ2.4t、カワハギ類1.6t、ブリ(ブリ)1.4t、カタクチイワシ0.8t

兵庫県…定置網…マアジ330kg、ハマチ74kg、スズキ36kg、サワラ21kg、スルメイカ2kg

鳥取県…まき網…マアジ16.6t、マイワシ7.7t、ブリ類7.3t、カタクチイワシ0.5t、ウルメイワシ0.5t、マサバ0.3t

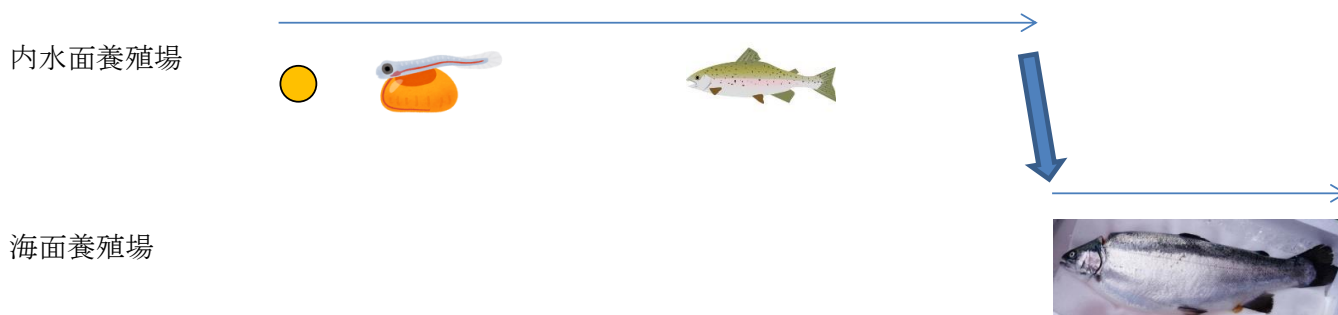
ふくいサーモンの研究が始まります！

5月3日の福井新聞に「福井産トラウトサーモン初水揚げ」との記事が掲載され、昨年12月から海面生簀で養殖されてきたサーモンの水揚げが本格的に始まりました。県内では、福井市、敦賀市、美浜町およびおおい町でサーモンの養殖が行われており、今年の冬からは小浜市でも養殖が始まります。

サーモンはお寿司のネタとして人気がありますが、その大半は海外からの輸入品です。世界的なサーモン需要の高まりから、日本国内においてもサーモン養殖への関心が高まっています。トラウトサーモンとは、ニジマス *Oncorhynchus mykiss* を海面で養殖したものの別名です。ニジマスは、明治時代に米国から日本国内に持ち込まれ、現在では国内各地の内水面（淡水）養殖場で生産されており、釣堀等でも馴染みの魚です。トラウトサーモンの養殖スケジュールを表1に示します。トラウトサーモンは、採卵から出荷までには長い時間がかかり、生産過程の半分以上を内水面養殖場で過ごします。サーモンは水温20°C以上の環境では生育することが難しいため、海面養殖場で飼育できる期間は冬期の約6ヶ月間しかありません。しかしながら、この期間に急激に成長し、200g程度の魚が2kg程度にまで大きくなることもあります。成長の個体差が大きいとの問題はありますが、急激な成長を見込めることがサーモン養殖の魅力の一つです。

表1 サーモン養殖のスケジュール

1年目				2年目			
秋 (10~11月)		冬	春	夏	秋	冬 (12月)	春 (5月)
採卵	孵化		稚魚				出荷



海面養殖場で良質なサーモンを生産するためには、健康で大きな種苗を内水面養殖場で生産することが重要です。水産試験場では、今年度から大野市宝慶寺の内水面養殖場において効率的に大きな種苗を生産する試験に取り組みます（図1）。方法としては、摂餌促進効果が認められている魚腸エキスを添加した餌料を与えることと、夜間も電照して飼育することによって成熟を抑制し、成長を促すことの効果を検証します。今後、サーモン養殖は国内での競争も激しくなると予想され、少しでも効率のよい生産方法を確認することが重要です。試験結果については、またご報告させていただきます。



図1 試験実施予定の水槽（大野市宝慶寺）